

当日



①出陣前②桃木の八幡神社にて③西平の女人堂での墓目④萩日吉神社に参拝⑤明覚郷の陣馬⑥当日の当番家⑦馬場に向かう⑧揃いの法被に意気を感じる⑨役目を果たす矢取り子

当日（1月19日）

流鏑馬当日。早朝に集合した明覚郷の一同は、日の出を合図に出陣する。観音堂、八幡神社、女人堂に立ち寄り、安全祈願と、墓目、四方固めを行う。会場に到着し、大河郷と合流。馬場にて朝まとうを行う。1回目はパミセ、2回目は手綱を外して疾駆。3回目はノッパライを行った。これが朝まとうである。15時。大観衆が見守る中、いよいよ矢を放つ夕まとうが始まる。墓目、四方固めの後、神馬が乗子とともに走り出す。馬場を駆ける乗子から矢が放たれた瞬間、カッと乾いた音で的に命中した。緊張感に包まれた会場に歓声が沸き起こる。観衆と伝統の技が一体となった瞬間である。

※ ※ ※

※墓目…矢立ての紙に矢先を3度当て一礼する。 ※四方固め…萩日吉神社方面、東西南北、中央と、その場で6本の矢を射る。 ※まとう…流鏑馬のこと。 ※パミセ…馬に馬場を見せること。 ※ノッパライ…乗払い。馬に乗り馬場を走り陣馬へ戻る。

風

馬場を駆ける 一陣の

その時、
静寂が歓声に変わった

